ぴったり

仲村めう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ぴったり

【Ｎコード】
Ｎ８３６２Ｄ

【作者名】
仲村めう

【あらすじ】
気弱な杏子と、無口な明宏の不器用で平凡な恋。

コンパ

……はぁ。

口からゆっくり漏れるため息。

高橋杏子（タカハシキョウコ）は憂鬱だった。

（あー、ダメダメ。タメ息つくと幸せにげちゃうんだって）

あわてて息を吸いなおすと、目の前の鏡に間抜けな自分が写っている。

（可愛くないなぁ……）

もっと可愛い子に生まれたかった。２０才を目前にしたこの年じゃ、もうどうにもならないだろうけど。

つり目のキツイ顔だちと、１７０センチメートルの長身と、人付き合いが苦手なこの性格のせいで、こわい人という印象をもたれることがすごく多い。

「ほんとに行くの？」

杏子のとなりで鏡と睨み合ってお化粧をなおしている山岸明衣（ヤマギシメイ）に問い掛けた。

「なに、まだ尻込みしてるの、高橋？」

明衣は強い口調で言うと、唇にピンクのリップを引いた。

めいちゃんみたいになりたい。　高校のとき彼女に出会ってからはずっとそう思っていた。

自分より２０センチも低い小さい明衣は、甘い顔立ちで男の子によくもてた。
顔に似合わず気が強くてしっかり者なところも明衣をさらに魅力的にしている。

「だって、コンパって飲み会でしょ？なんかこわくない？」

「こわくないって。学部の飲み会なんて、知り合いばっかりだから平気だよ」

すでに何度目かの質問に明衣は呆れている。　杏子と明衣の通う学部では月に１回くらいコンパが開かれる。
トモダチが少ないし、そういう場が苦手な杏子は入学してからいままで（と言ってもまだ４ヵ月しか経っていないが）断り続けていたのだ。

（行ったって、どーせ隅で一人で静かにご飯食べてるだけだし……）

そういう卑屈な考えしか浮かばない。

「あたしもずっと高橋と遊んでいられないし、夏休み一人なんてさみしいでしょ。
コイビトとまでいかなくてもさ、遊べるトモダチつくろうよ、高橋」

お化粧を終えた明衣は明るく言って、杏子の腕をとった。
そんな明衣を見下ろして、杏子はひっそりため息を吐く。

（めいちゃんみたいになれたらいいのに……）

明衣がいったとおりコンパは本当に気楽なものだった。
大学のそばにある居酒屋を貸し切りにして、他のお客さんに気を遣う必要がない。おかげでみんな羽目を外している。
明衣はしばらく杏子のそばにいてくれたが、途中で別の輪に行ってしまう。
杏子にトモダチが少ないといってもしゃべれる子は何人かいる。
そこの輪に入って話を聞いて、適当に笑って過ごした。
話をあわせてさえいれば気まずくならないし、笑ってさえいれば感じ悪くはない。
杏子は普段あんまり笑うほうじゃないけど、無理矢理口角をあげているうちにだんだん笑えるようになった。
……あんまり楽しくないけど。

（……ちょっと疲れちゃった、かも）

一息ついてすみっこで烏龍茶をのむ。
居酒屋の濃い目の料理はあんまりおいしそうには見えなくてほとんど手をだしていない。おつまみ系もちょっと苦手だ。
ケータイの時計を見ると、始まってからそろそろ1時間半経っていた。
もう帰っても文句はいわれないだろう。
杏子は帰る前に明衣に声をかけていこうと思って、コップを手に立ち上がる。

どん。　杏子が立つのとそう変わらないタイミングで、隣にいた男の子も立ち上がった。
杏子の腕が男の子の背中にぶつかり、プラスチックのコップが宙を舞う。

（え、うそ……）

まだ、半分くらい烏龍茶が入っていたはずだ。
男の子は一瞬だけ肩を震わせた。
見ると、Ｔシャツとジーンズに大きくしみができている。

「ご、ごめんなさい！」

杏子はとっさに頭をさげた。
思いの外大きな声が出て、まわりが静まり返る。視線がいっきに杏子たちに集まった。
男の子は困った様子でこちらを見て、

「ちょっと来て」

がし。
腕を捕まれた。
男の子に出口の方にひっぱられる。
さーっと血の気が引いていった。
どうしよう、どうなるんだろう。
悪い想像ばかりが頭の中を巡って、杏子は少し――いや、かなり泣きそうだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8362d/

ぴったり

2010年10月30日22時42分発行